



# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'97 9月号

## 夏期特別展

# 「農家の四季」記念講演会開かれる



8月10日の日曜日午後、博物館講堂にて、「稲作と畑作の農耕文化」と題し、相模原市立博物館学芸員の加藤隆志さんによる記念講演会が開かれました。会場には、45人の方が集まり、普段はなかなか耳にすることができない、アカデミックな民俗学の話に熱心に耳を傾けていました。

講演内容は主に三つに分かれ、まず“民俗学における「稲作」と「畑作」”ということで、日本には畑作に基づく独自の文化が存在しており、従来の水田中心史観だけでは日本の文化を正しく理解することはできず、稲作と畑作の文化を複合的にとらえる必要があることを民俗学の研究史をふまえてお話しされました。

次の“相模原市域の農業の特徴～畑作と養蚕～”では、明治前期の相模原市域の耕地面積に占める水田の割合はわずかに5%（ちなみに平塚市はほぼ田畑半々）と、相模原市がいかに畑作卓越地域であるかを地図や統計資料で示された後、相模原の農業の特徴についてお話しされました。平塚と相模原は、ほぼ同じ面積にもかかわらず、近世平塚は54宿村に分かれ、かたや相模原は18村しかありません。近世村の数が少ないのは、畑作農村の特徴で、これは石高制のためではないかという指摘がございました。

最後に、“「稲作」と「畑作」を巡る諸問題”では、平塚市に代表される稲作地域と比べた畑作地域の特徴として相模原市の例を挙げ、山の利用をめぐる慣行が発達しており山番と呼ぶ見張りが立つこと、畑作物は売るために外界の動きを敏感に察知する必要があり稲作より外の世界とのつながりが強いこと、女性は専ら養蚕担当で耕地に出るのは田植えと麦刈りくらいだったこと、農耕儀礼に乏しいことなどを指摘されました。最後に今後の指針として、栄養価が高いために米は強い求心性を持っており、畑作儀礼を始めとする畑作独自の文化が稲作の中に取り入れられていく過程を歴史的に検証する必要があることを指摘されました。（浜野記）

# 第5回公募写真展の審査結果発表

6月1日から7月24日までの募集期間に応募された作品は279点（組写真も含む）を数え、平塚市、茅ヶ崎市、秦野市、横浜市、鎌倉市、逗子市、湯河原町と各地の方からの応募がありました。ありがとうございます。

8月2日に民俗写真家の須藤功氏、平塚写真連盟会長の吉峰達希氏と平塚市博物館長の3名の審査員により、下記の方々が入選されましたので発表いたします。

入選された作品は10月1日からの「第5回平塚市博物館 公募写真展」に出品されますので、是非多くの皆様に見ていただきたいと思います。

## 優秀賞

関谷育雄	「世紀の大彗星」
増田智生	「朝もやの中で」
寺川 仁	「夕景」
	「ごつつあんです」
吉崎安太郎	「神輿の浜降り」
三浦 宏	「相模川付近のごみと放置車両」
小野憲一郎	「かわせみの子育て」
米丸すみ子	「川面を走る帆掛け船」
笹尾敏子	「田園の彩（伊ドリ）」
道上久男	「お前たちの里」



御輿の浜降り 吉崎安太郎

## 入賞

関谷育雄	「世紀の大彗星」
内田富士子	「シラスの乾燥」
内田敏彦	「田園の番人」
岡本高明	「はぜ釣り船」
	「湖底西沈んだ村」
山田房枝	「相州ダルマのできるまで」
	「地引網」
内田富士子	「水田の掃除人」
武田秀夫	「網づくり」
田部谷康子	「富士に映える新橋」
吉崎安太郎	「三増の獅子舞」
江口アヤ子	「泳げ!!こいのぼり」
三浦 宏	「漁の後」
飯田一雄	「釣人と帆舟の相模川」
富田淳子	「レンゲ畑のいこい」
岸村朋浩	「相模川の大凧」
	「相模川の渡し船再現」
氏家勝男	「朝の忍野富士」
笹尾敏子	「収穫」
	「完成間近の小倉橋」



かわせみの子育て 小野憲一郎



世紀の大彗星 関谷育雄

## 体験学習「縄文土器を作ろう」より

8月6・7・8・27日の4日連続の「縄文土器を作ろう」を行いました。参加された方は大人・子供18人。実物の土器を目の前にしての制作と暑い日中での野焼き。大変な作業でしたが、無事完成された作品に歓声が上がりました。

### 参加者の声

形や底を作る時、底の所の大きさがそろわなかったり、形や高さ、口の広さなどをそろえるのがむずかしかった。焼くとき、とてもあついからまきをいれるのが大変だった。

縄文土器作り教室で一番楽しかったのは、かたち作りです。むずかしくて、なかなかうまくいかなかったけど楽しくてやりがいがありました。一番つらかったのは、燃えさかるたき火の中に木を入れることです。近づいただけでも暑くて、もうサウナとは比べものになりません。

縄文土器は以前から関心がありました。形に特に魅力がありました。難しいことはわかりませんがとても原始的な力を感じます。私は吉沢の山の中で住んでいますので、自分でもチャレンジしてみたいと思います。

私が「縄文土器作り」に参加したのは、学校で縄文時代のことを勉強して土器を作ってみたいなあと以前

から思っていたからです。普通ではできない体験ができてよかったなあと思いました。

子供と一緒に土器を作成したいと思って参加したのに、まったく自分だけの世界に入り熱中できた。この数日間とても楽しく過ごさせていただきました。

形を作っているときも模様をつけているときもみんなおもしろかった。ここにきて、お友達ができたし楽しかったです。

普段の生活では体験できなかったことがたくさんあったと思います。この体験が何らかの形で実生活に生かせたらと思います。さて、できあがった作品にどのような思いが込められているのでしょうか。同じものを作りながら、様々な顔つき。面白いものです。(明石記)



## プラネタリウム新番組

## 生命の星の条件

9月12日～11月9日

### あなたはETを信じますか

文明を持つ知的生命、ETは本当にいるのだろうか。宇宙人は空飛ぶ円盤で地球にやってきているのだろうか。あなたも一度は疑問に思われたことがあるでしょう。この疑問に天文学者も科学的に答えようと取り組んできました。

### 知的生命の存在する確率

宇宙のようすが明らかになればなるほど、生命が生まれる確率は小さくなってきているようです。

1960年、フランク・ドレイク博士によって宇宙に知的生命が存在する確率、ドレイクの方程式が提案され

$$N = R_* \cdot f_p \cdot n_c \cdot f_l \cdot f_i \cdot f_c \cdot L$$

### ドレイクの方程式

ました。これは次のような方程式です。

N は銀河系の中に存在する知的文明の数。これは絶対ゼロではありません。

なぜなら、地球、私達がいるからです。

R は銀河系の中で毎年誕生する星の数。

f<sub>p</sub> は産まれた星が惑星を持つ確率。

n はそれらの惑星のうち生命が発生する惑星の数。

f<sub>l</sub> は生命が複雑に進化する確率。

f<sub>i</sub> は複雑な生命が知的生命にまで進化する確率。

f<sub>c</sub> は知的生命が通信技術をもつにいたる確率。

L はそれらの文明の寿命。

これらを掛け合わせた数が銀河系の中にある文明を持った知的生命の数となります。

この答えは、いくつになるのでしょうか。

### 電波・探査機を使った探査

ドレイク博士の試み以降、電波を使って文明を持つ生命体が出す電波の受信が試みられてきました。また、太陽系の惑星たちの探査が進むにつれて、生命が生まれるには過酷な条件であることもわかってきました。地球が育ててきた生命がとても貴重なものであることも理解されるようになりました。

### 文明は環境を破壊する

今、私達にとってかけがえのない地球の将来に暗い影が忍び寄ってきました。人類の文明がもたらした影。人類が他の生物達と地球を永遠のふるさとにしていくために、何を守っていくべきかを考えてみましょう。



# 博物館カレンダー

## 9月の行事予定

6	土	○	自然観察ゼミナール (帰化植物入門)	
7	日		民俗探訪会	(館内)
10	水		地質調査会	(館内)
11	木		石仏を調べる会 博物館実習 18日まで	
13	土	◎	漂着物を拾う会 古文書講読会 平塚の空襲と戦災を記録する会 プラネタリウム 生命の星の条件 11月9日まで	(館内) (館内)
14	日	○	自然観察ゼミナール (帰化植物入門) 地質調査会	(館内)
17	水		裏打ちの会 プラネタリウム学習投影 1月末まで	
20	土		平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会 天体観察会 変光星の観察	(館内)
21	日		古代遺跡を探す会	
25	木		石仏を調べる会	(館内)
27	土		古文書講読会	
28	日		相模川の生い立ちを探る会	(国府津)

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

## 10月の行事予定

1	水	◎	秋期特別展 公募写真展 30日まで	
4	土	○	こども観察会	(海岸)
5	日		民俗探訪会	
9	木		石仏を調べる会	
10	金	○	体験学習 レコード	
11	土	○	考古学入門 平塚の空襲と戦災を記録する会 古文書講読会	(館内)
12	日		地質調査会 ○ 自然観察ゼミナール (帰化植物入門)	(野外)
15	水		裏打ちの会	
17	金	◎	星を見る会 (木星・土星)	
18	土		平塚の空襲と戦災を記録する会 地質調査会	(館内)
19	日		古代遺跡を探す会	
22	水		地質調査会	
23	木		石仏を調べる会	(館内)
25	土		古文書講読会 天体観察会 (星の写真) ○ 考古学入門	(大磯)
26	日		相模川の生い立ちを探る会	(山北)

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

### ●神奈川キノコの会20周年記念

#### 「キノコ展」

会期：9月17日(水)～21日(日)

会場：特別展示室

主催：神奈川キノコの会 後援：博物館

・キノコの写真、標本などを多数展示します。

### ●第8回こども観察会

#### 「漂着物を拾おう」

期日：10月4日(土)

時間：午後1時半～午後4時

場所：平塚海岸

内容：砂浜に流れ着いた動植物などの観察。

申込：9月25日までに往復ハガキで。

(小中学生およびその保護者に限る)

### ●寄贈品コーナー

#### 「飛ぶー翼と羽ー実習生展」

博物館実習生が製作した展示です。

会期：9月18日(木)～10月30日(木)

### ●考古学入門

期日：10月11・25日 11月8・29日 4回連続講座。

内容：発掘資料から見た原始・古代の平塚の特質を考える。縄文時代・講師：安藤文一、弥生時代・講師：岡本孝之、古墳時代・講師：関根孝夫、奈良・平安時代 明石新

申込：9月30日までに往復ハガキで。定員80名。申込多数の場合は抽選とします。

## あなたと博物館

22巻 6号 通巻247号 発行 平塚市博物館 3000

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:0463-31-3949